

令和7産 美里地区の大豆情報

第3号 令和7年7月29日

宮城県美里農業改良普及センター

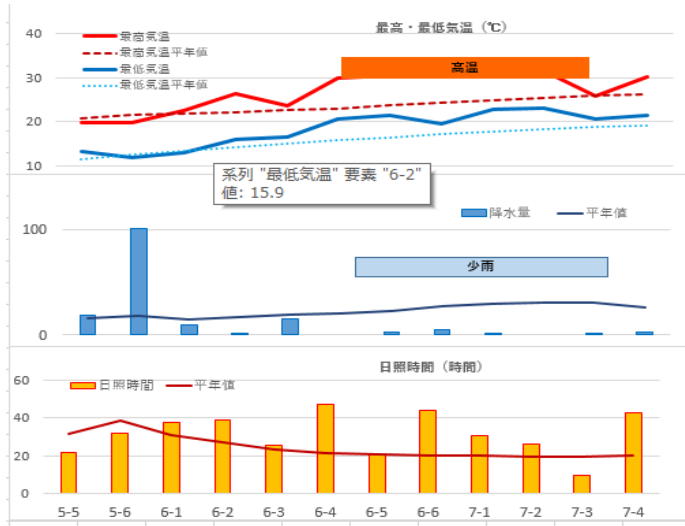
TEL:0229-32-3115

FAX:0229-32-2225

<https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

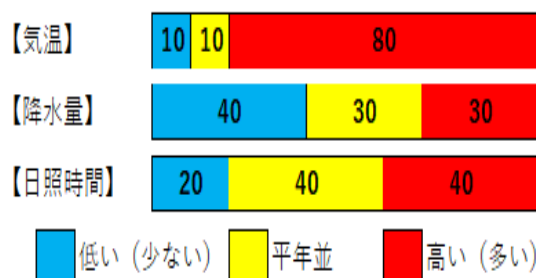


1 気象経過及び生育状況（鹿島台アメダスより）



★向こう1か月予報（7/26～8/25）

1か月の気温、降水量、日照時間の階級の確立（％）



6月の気象概況は高気圧に覆われ晴れて気温の高い日が多くなりました。降水量は少なくなり、日照時間は多く経過しました。7月も同様の傾向で、上旬は降水量がかなり少なくなっています。なお、東北南部は6月14日頃梅雨入りしたと見られ、7月18日頃梅雨明けしました。向こう1か月予報では東北太平洋側では、天候は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いと予報されています。

2 生育状況

生育調査結果（調査日：7月25日）

品 種	調査地点	区 分	播種日	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)
ミヤギシロメ	美里町青生	本年値	6/20	40.9	9.3	0.3
		前年値	6/18	32.0	8.6	0.1
		前年差	2	8.9	0.7	0.2
すすみのり	大崎市田尻大沢	本年値	6/10	39.0	11.1	2.2
タチナガハ (晩播)	大崎市鹿島台木間塚	本年値	7/13	7.8	2.5	—
		前年値※	7/1	42.8	7.5	0.3
		前年差	12	△35.0	△5.0	△0.3

※：令和6年は7月30日に調査を実施。

【標播】

- ・6月中に播種したほ場では出芽は概ね良好で、生育も順調となっています。すすみのりでは開花が始まっています。

【麦後晩播】

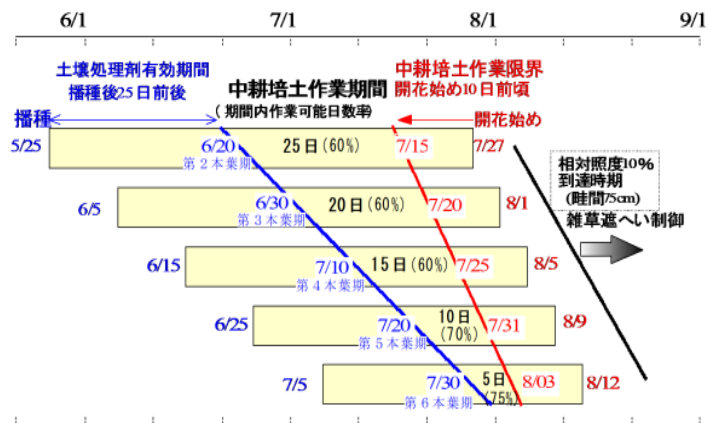
播種後、降雨が極端に少なかったことから出芽不良となり、欠株が多くなっています。

3 今後の管理

(1) 中耕・培土

普通まきのほ場はおおむね生育が順調で、培土作業の限界に近づいています

- 中耕培土により不定根の発生による生育促進、増収、倒伏防止、土壤通気性・排水性の改善、除草等の効果があります。
- 遅い時期の中耕・培土は、主茎や分枝の損傷、断根により生育に支障を来すため、開花の10日前までには終わるようにしましょう。



(みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針 より)

図 中耕培土作業可能期間設定の目安

(2) 追肥 開花期から幼莢期の窒素養分吸収を補いましょう

- 追肥は乾物生産が旺盛となる「開花期～幼莢期」の窒素供給を目的として行います。
- 知力の高いほ場では追肥の効果が低い場合があるので、ほ場条件を考慮の上、実施しましょう。実施する場合は根粒菌の活動を抑制しにくい被覆肥料（40日タイプ、窒素成分で5kg/10a）を使った最終培土期（晩播栽培は8月上旬（本葉5～6葉期））に行いましょう。

(3) 乾燥対策

大豆は、開花期までは排水対策に重点を置いて生育量を確保しますが、今年は6月末以降降水量が少ない状態が続いています。今後も晴天が続く予報となっていることから、開花前から暗きょ栓を閉じ水分保持に努めてください。

用水の確保できるほ場では明渠に水を入れ、弾丸暗きょを活用し、水を供給しましょう。また、速やかに排水が可能なほ場では畦間かん水などの対策を検討してください。

畦間かん水を実施する場合は、ほ場が乾燥していることから、1回でかん水するのは困難です。数回に分けかん水してください。なお、かん水により湛水状態になると逆効果となりますので、実施の際には留意してください。

特に大豆は開花期以降、水を必要とする時期になります。干ばつ対策を実施することで、着莢数が増加し、収量増加につなげることができます。

開花期から子実肥大期
(7月末～8月末頃)

・・・ 大豆の生育で最も水分が必要な時期

水分不足

根粒の窒素固定量が減少
開花数減少や花の脱落

着莢数の減少

収量減少や
青立ち株の増加

(4)大雨時の湿害対策～排水状況を確認し、局地的な大雨等に備えましょう～

現在は渇水状態ですが、台風や局地的な大雨に備え、雨が降る前に湿害対策をしっかりとることが重要となります。

- ① 播種前に施工した明渠が排水路につながっていることを確認する。
- ② 排水路に雑草や土砂がたまっていないことを確認する。

(5)病害虫対策

【主な病害虫】

◆ツメクサガ



ツメクサガ成虫



ツメクサガ幼虫

◆オオタバコガ



オオタバコガ成虫



オオタバコガ幼虫

突発的に多発し葉や莢を食害します。発生密度は開花始期ごろにピークを迎え、ピーク時の発生密度は播種時期が遅いほど高くなる傾向にあります（図参照）。発生種を確認の上、幼虫の葉齢が進むと薬剤の効果が低下するため、散布時期を逸しないように作業を行いましょう。

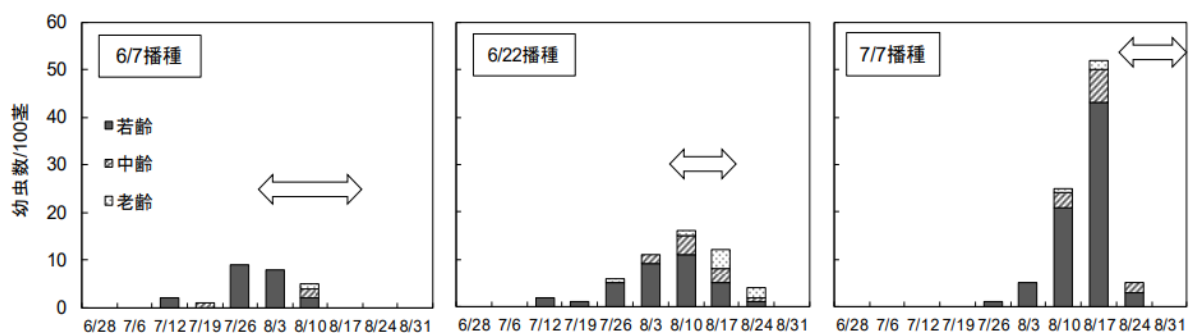


図 播種時期が異なるダイズにおけるタバコガ類幼虫の発生消長(品種: ミヤギシロメ)

(みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針 より)

◆サヤムシガ類



ダイズサヤムシガ幼虫 侵入された茎とつづられた展開葉
写真出典：みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針

◆マメシンクイガ

連作ほ場で多発します。幼虫が子実の縫合線に沿って食害します。8月末～9月はじめに1回目の防除、その7～10日後に2回目の防除を行いましょう。日長に反応して休眠覚醒するため発生時期の年次変動は少ない傾向があります。

◆フタスジヒメハムシ

連作ほ場で多くなります。子実に黒色の斑点が生じるほか、大豆の生育期間中に葉を食害(円孔状)します。若莢の表面を舐め取るような食害痕が特徴で、莢の食害部分から雑菌が侵入して被害粒が生じます。

◆ダイズシストセンチュウ

播種2か月後頃に根に寄生しているのを確認(白～淡黄色で約0.6mmのレモン型の雌成虫)できます。寄生されると、葉が黄化して茎葉が生育不良となり、線虫の密度が高まるほど症状も著しくなります。作業機械や長靴などに付着してほ場間を移動するので、発生ほ場を確認した場合は注意が必要です。根絶することは難しく、大豆作付前にクリムゾンクローバーなどの緑肥作物の栽培や田畑輪換など複合的な対策で密度を下げる対策が必要となります。

◆紫斑病

タンレイでは特に注意が必要です。成熟期の平均気温が $18\pm3^{\circ}\text{C}$ で、降雨が多いと発生が多くなります。開花期後20～40日に1～2回防除(同一剤を使用しない)しましょう。

農作業中の熱中症を予防しましょう！！

○暑さを避ける

～高温時の作業は極力避け、日陰や風通しの良い場所で作業～

○こまめな休息と水分補給

～のどの渴きを感じる前に水分、塩分補給～

○単独作業は避ける

～複数名で作業を行う。時間を決め連絡を取り合う～

○熱中症対策アイテムの活用

～帽子や吸湿速乾性衣類の着用。空調服や送風機の活用～

◇◇◇農薬危害防止運動実施中(6月1日～8月31日)◇◇◇